

調査期間 2017年4月1日～2018年12月31日
所在地 秦野市菖蒲字内開戸
時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
調査原因 一般国道246号（秦野IC関連）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 秦野市西部、四十八瀬川右岸の段丘上に位置する。



主な調査成果

本遺跡は、小田急小田原線渋沢駅から西に直線距離で約2.2kmの地点に位置します。国道246号線を挟んだ南北の調査区からは、中世の耕作遺構と奈良・平安時代、縄文時代の集落の一部が発見されました。

北側のA調査区からは中世に遡るハタケ跡が確認されました。盛土層の下から発見された畝状遺構で、畝の形を良好にとどめています。南側のB・C調査区では、南北に横切る溝状遺構によって区画されるように、奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物跡が発見されています。縄文時代の遺構では、竪穴住居跡が見つっていますが、いずれも張出部をもつ柄鏡形の敷石住居です。また、周囲からは屋外埋設土器や集石遺構が確認されました。

B区を含む南側の調査区は現在も調査を継続中です。調査を終了した北側のA区については、報告書刊行に向けて出土品の整理作業を行っています。



A区 C5号畝状遺構断面（中世）



B区 H1号住居 遺物出土状況（奈良・平安時代）



B区 J3号埋甕（縄文時代）



C区 J1号敷石住居（縄文時代）